



### 連載 資産運用「茶飲み話」(2)

岡本 和久

早いもので証券界に入って43年になりました。オイルショック、貿易摩擦、プラザ合意、80年代のバブル膨張と崩壊、ITバブルと暴落、サブプライム問題、ユーロ問題、世界的な金融危機、まあ、色々ありましたね。でも、何とか生き延びてくることができました。そんな私の茶飲み話、聞いてやってください。



争わない投資とは、一体、何と争わないの

私が提唱しているリラックス投資とは①急がない、②欲張らない、③争わない、④考えすぎない投資です。このなかで「争わない投資」というのは何か少し説明しましょう。

「争う」という以上、相手がいます。プロの世界ではその相手は「他社」です。「競争相手よりももっといいパフォーマンスをあげる」というのはプロの世界での競争の宿命です。まあ、それは事実ですが、個人投資家にはあまり関係ない世界です。

個人投資家にとって争う相手とは？それは「時間」と「マーケット」です。

まず、「時間」。「いつまでに、いくら儲けたい」というのは時間との戦いです。時間と争わないというのは、時間を味方につけて、複利の効果を活かしてしっかりと資産の成長を計ろうということです。

「マーケット」と争わないというのは、市場指数や市場平均を上回るパフォーマンスをあげようとしなくていいということです。言い換えれば、市場並みのパフォーマンスで満足するということ。上回ろうとすると、時に下回ることもあり、トータルで見れば、売買で動くときに取られるコストだけ損をしてしまう。市場並みのパフォーマンスをしっかりと稼ぐので満足していればいいのです。これが「知足」の運用です。

「時間」と「マーケット」を味方につける。つまり、市場全体をインデックス投信やETFで長期間、保有していれば相対的には安定したパフォーマンスがとれるという意味です。ここで大切なことは、「マーケット」というのは今や、日本市場だけではないということです。我々がお世話になっている



## 長期投資仲間通信「インベストラ이프」

のは世界中の企業です。ですから、世界中の主要企業をカバーするようなインデックス投信を保有することが必要です。その点はとても大切なポイントだと思います。

「投資」は資金を投げること、「運用」は運んで用いること

「投資」と「運用」という言葉はしばしば同意語として使われます。でも、私は、これらは大きく異なると思います。

「投資」とは資金を投げること、つまり、資金を手放す。自分が持っている余裕資金を、今、おカネを必要とする人に融通してあげる。その人は、そのおカネを活用して、収益を上げる。その収益の一部をリターンとして受け取る。これが投資です。自分が人のために融通した資金が収益を生み出し、それが自分のところに戻ってくる。だから「リターン(戻る)」というのです。

「運用」は運んで用いる。運んでいるのですから手放さないのです。人生という長い時間軸に沿って資産を運んでゆく。そして、将来、必要となった時にそれを用いる。ですから、運用には出発点があり、過程があり、目的地がある。そして、そこに時間の流れがあるわけです。言い換えれば、①いま、いくらあるのか、②これらいくらずつ積み立てるのか、③何年間運用をするのか、④そして、最終的にいくら必要なのかという四つの要素で出来上がっているのが運用です。

仮に 10 万円「投資」をして、その銘柄が 10 倍高をした。これは投資としては大成功です。でも、投資した金額が 10 万円だったとすると、それが 100 万円になっても将来の経済的基盤ができたかと言えばそうではない。運用の目的はいかに金融資産全体を安定的に増やしていくかというところにあります。「将来の自分を今の自分が支える」、これが「運用」です。

短期投資は株価の売買で儲けようとする、長期投資は企業の保有で儲ける

「よく長期投資って何年以上保有することを言うのですか」という質問を受けます。でも、私は何年以上が長期で、以下が短期という区分は適当ではないと思っています。

長期か、短期かの区分は保有期間の長さではなく、その動機によるのだと思います。

短期投資はあくまで株価を対象として売買で儲けようというものです。長期投資は企業を保有して、企業が成長すると共に投資資金も大きく育っていくのです。当然、長い時間がかかるのです。その意味では、長期投資の「長期」という言葉は少し誤解を招きやすいと思います。



## 長期投資仲間通信「インベストライフ」

私は「永代」という言葉が好きです。井原西鶴の日本永代蔵の「永代」です。この言葉、「時間的な制約がない」という意味だそうです。永代証文とか、永代供養というのも「ず〜と」という意味です。まさに、長期投資の長期は永代です。だから「永代投資」と言った方が良いかも知れません。

ちなみに永代蔵の「蔵」は現代的に言えば全財産という意味でしょう。つまり、永代蔵というのは「非常に長期にわたって保有する資産」という意味になるのではないかと思います。

時間的制約がないということは、「時間を味方につける」ということです。短期投資は「いつまでに、いくら儲けたい」という、時間と争う投資です。永代投資は時間の流れを楽しみながらのんびりと資産を増やす。

「Get rich slowly!(ゆっくり金持ちになろう)」が長期投資です。